

会 議 録 要 旨

会議名	令和4年度 第3回藤沢市下水道運営審議会	
開催日時	2022年（令和4年）8月1日（月）午前9時32分～午前11時35分	
開催場所	本庁舎5-1、5-2会議室	傍聴者数
		0人
出席者	会 長	杉 渕 武
	委 員	井上 美鈴 小野島 真 齋藤 力良 野牧 喜久江 三輪 晋 矢出 乃大
	事務局	鈴木下水道部長 [下水道総務課] 近藤参事・指旗主幹・細谷主幹・藤原主幹・鈴木補佐・利根補佐 外山専任補佐・三澤上級主査・吉原専任上級主査・東嵩西主任 [下水道管路課] 中村課長・小松補佐 [下水道施設課] 濱野参事・竹内辻堂浄化センター長・佐藤大清水浄化センター長 田中補佐・鷺塚補佐・斉藤補佐・山村補佐
議題及び公開・ 非公開の別	1 中期経営計画の策定について 2 下水道使用料の改定(素案) について その他 (すべて公開)	
非公開の理由		
審議等の概要	<p>《議題》 1 中期経営計画の策定について 資料1-1～1-3に基づき説明。</p> <p>【質疑】 (1) 資料1-1 P23に処理場のダウンサイジングのイメージがありますが、ダウンサイジングは処理容量を小さくすることになりますが、今の藤沢市の1日の処理計画容量がどのくらいで、将来的に何割ぐらいダウンサイジングするのか教えてください。</p> <p>《回答》 藤沢市の現在の見通しでは、まだ人口が減少しない見込みのためどのくらいの規模をダウンサイジングするかは決めていない状況です。今後、人口が減少する見通しとなった際、処理水量等を勘案し市全体の下水道施設をどういう形にしていくのかを検討・議論し、ダウンサイジングが必要になった場合に実施していこうという段階でございます。今現在で将来どれぐらい減らすかというところはまだ決めておりません。</p> <p>【意見】 分流地区で雨天時浸入水の影響が想定以上の水が来ることもあり得るので、下水道の場合、想定以上の負荷がかかる可能性があると思う。そのためある程度容量には余裕があったほうがよいと思われるので、ダウンサイジングについてはよく検証して進めたほうがよいと思います。</p> <p>(2) 資料1-1 P43収益的収支（試算）で、2020～2021年度の維持管理費が53～56億円になっているが、短期計画が始まる2023年度には66億円となっており、急激に伸びている。何か特別な事業をやるということが書いてあるのでしょうか。資料1-3の主な事業内容に記載されている注1がそこにあたるのでしょうか。</p> <p>《回答》 資料1-1の第2章（P12）で下水道事業の課題を挙げており、その1番目に「下水道施設の老朽化対策（ストックマネジメント実施方針）を着実に実施する必要があります」としており、下水道施設の老朽化が急速に進む中で、調査・維持修繕に力を入れていきたいと考えております。第3章（P14）経営方針においても計画期間におけるテーマを「老朽化対策を軌道にのせる10年とする」と設定をさせていただき、着実な推進を令和5年からしっかり進めていくとしています。令和5年からの増加に関しては、そのストックマネジメントを着実に実施することによる維持管理費を反映しております。</p>	

審議等の概要

【意見】

この数値の意味は結構重要なものだと思います。注釈など少し記載したほうがよいと思います。

- (3) 資料1-1 P45資本的収支（試算）で建設改良費にばらつきが大きい気がします。何か大きい施設を造るか改良をするからという意味合いだと思いますが、その辺りを分かりやすく記載したほうがよいのでは。何の計画に基づいてこういうものを建設・改良しないといけないと、注記などで記載したほうが分かりやすいと思います。

《回答》

資料1-3の裏面で施策別の事業費を記載しておりますが、資料1-1 P45では、その年々によつての大きなトピックスが記載がございませんで、第4章の事業計画の内容と結びつくようトピックスを加え、ひもづくような説明を加えるよう修正させていただきます。

- (4) 資料1-3裏面 資本的収支の一番下に、利益が上がった部分は補填財源として減債積み立てをするとあるが、起債残高に対して減債積み立てをこれだけ積み立てるとか、起債残高がグラフ化されているのでしょうか。また、減債積み立金は、市全体での積み立てなのか、下水道部として独立して持っているのか。起債残高は下水道部として幾らというものは出ていると思うが、それに対して積み立てがどのようにになっているか示されているのでしょうか。

《回答》

減債積み立て及び起債残高は、下水道会計で独立しています。資料1-1 P8に借入金の推移を示しており、先の見込みについてはP45に示しておりますが、コラム的に分かりやすくページをまとめるなど改めて分かりやすくしてまいります。

- (5) 資料1-1 P41の下の表で、③流動比率だけ評価がバツだが、流動比率は1年以内に支払うべき債務に対し支払う現金等がある状況で、藤沢市は下水道料金を上げ収入を得ることで、64.86%を100%に近づけたということになるのかと思います。そのことが一番大きな危機とされておられると思いますが、手持ちの現金を増やすためには下水道使用料でお願いしたいということと理解していますがいかがでしょうか。また、その説明は大変だと思うがよく整理して市民にお伝えしていただきたい。

《回答》

経営の安定性から見ると100%が望ましく、これに近づけていくためには下水道使用料で利益を上げていくことが近道でございます。今回は老朽化対策を軌道に乗せるために維持管理費の金額が上がり、また経費回収率を令和9年度時点で100%にするために12.7%の改定を想定しておりますが、今後は将来に向けて安定経営を考えた場合、建設改良積み立てを含めた使用料改定など議論をお願いしていくことになるかと考えております。資料1-1 P47の「収支構造の適正化に向けた方針」でお示しておりますが市民の皆様には、経営の安定性を図るという安定性という観点をまず御理解願わなければならず、そのためには、経常収支比率が100%に近づけるには黒字化が必要で、主要財源が問題になってきます。もうひとつは、独立性で一般会計の繰入金は、適正な額のみしかいただかず、独立した採算をやらなければいけません。その2つを兼ね合わせると、主要財源の見直しを図らざるを得ないというのが観点となり、その点を整理し示してまいります。

- (6) ダウンサイジングを考える際、1日平均の処理量でなく時間当たりの処理流量で考えないと、現状の処理方式を使う限り難しいという感じがします。P44に、維持管理費が今後10年間で15%上がるとあり1年を平均すると1.5%となる。今後10年、1.5%の値上がりというのにはあり得ないと思います。昨今、8月から家庭用品などが値上がりしているので心配だと思います。P52に、建設改良費の投資があり、将来、更新・改築が増える説明ですが、アセットを十分に機能させると建設改良投資が抑えられるのか。

《回答》

物価の高騰に関しては、計画策定時に0.8%の物価上昇分を見込んでいます。現状はそれ以上の物価上昇をしており危惧はされますが、計画の進捗状況を把握し5年ごとに見直しを行う予定です。また、アセットマネジメントの本格運用が始まると、人、物、金の効果をどう表していくのか等を含めて御報告をさせていただきますが、金額的なところは現状把握でき

審議等の概要

ておりません。P22でイメージでお示しをしておりますが、ストックマネジメントをアセットマネジメント手法に基づいてやっていくことで、全体的な建設投資は平準化されるというイメージを示しております。

- (7) P22のアセットマネジメント手法に基づいて改築更新する場合、平準化されることになり、P52のグラフにならないのではないかと。端的に言うと積立金が要らないのではないかと。

《回答》

建設投資の平準化を見込むにあたり、点検と調査を維持管理でしっかり行うことで改築量が見込めることとなります。まずはこの点検・調査を早急に行うための不足分については、使用料で充当し、将来的な改築については企業債借入額を抑制するため積立てを持っておきたいというのが趣旨でございます。

- (8) P52の建設改良投資というのは、改築の費用の部分で、点検・調査の費用も含めているのか。

《回答》

点検調査に関しましては含めておりません。点検調査は、収益的収支に入っており、建設改良投資は、資本的収支に入っております。P12の解説にストックマネジメント実施方針がありますが、この解説にある下の左側、点検・調査と右の修繕・改築の予算の紐づけを市民の方に分かりやすい説明を加えさせていただきます

- (9) P11下のグラフで、資本的収支のR3年を見るとグリーンの建設改良費、グレーの企業債償還元金とあるが、この企業債償還元金の原資は減債積立から持ってきているのか。

《回答》

企業債償還元金の原資は、減債積立金、一般会計からの繰入れを一部受けられるものがあります。

《議題》

2 下水道使用料の改定（素案）について

資料2-1～2-3に基づき説明。

- (10) 下水道の経営努力について、今まで行ってきた部分を整理し資料に掲載したほうがよいのでは。定量的に出せないのであれば定数的な表現で、過去にやってきたことを示したほうがよいと思います。

《回答》

例えば1の経過の中に、今までの固定費部分の経営努力について表現を加える形で、再度考え直したいと思います。

- (11) 累進度がどの程度が適切なかの判断することは難しいですが、改定の素案は、大量に排出する企業に対する負担はできるだけ抑えられるが、一般家庭への負担が相対的に見ると引き上げるといふ案になるため、きちんとした説明が必要だと思います。他の事業体、自治体との比較なども含め丁寧に説明をされたほうがよいと思います。

《回答》

累進度の説明については、改定素案の中に加えたいと思います。趣旨としては、多量排水者の数が減少しており、下水道使用料の体系そのものを構造的に変える必要があるということと、他都市との比較などを加え説明に入れていきたいと思っております。

- (12) 実際の値上げのタイミングはいつになるのか。水道料金も値上げされると思われるが、時期は一緒なのか。

《回答》

4月からの値上げを検討しております。上水道についても現在検討を行っているがまだ先の予定と聞いております。

- (13) 多量排水者について、具体的に件数など数値の推移があると市民が分かりやすいと思います。

《回答》

具体的な件数の推移を記載し、分かりやすくお示しできるように構成してまいります。

その他	<p>(1) 辻堂辻堂浄化センター施設見学について 見える化の推進として、令和5年までの合流式下水道緊急改善工事の見学及び辻堂浄化センターの施設見学を企画（8月10日）定員20名で募集を行っていることを報告。</p> <p>(2) 審議会日程の時間変更について（第6回 10:00→14:30）</p>
-----	---